

中部活性化の「導火線」

鳥取看護大 文科省が認可証交付

文科科学省は31日、福庭の学校法人「藤田鳥取看護大の設置認可 学院」に設置認可証を答申を受けて、倉吉市に交付した。山田修平理



設置認可証を吉田局長から受け取る山田理事長(右) = 31日、文科省

事長らが文科省を訪れ、高等教育局の吉田大輔局長から受け取った。後押ししてきた地の自治体や経済界などは、中部地区の活性化につながるを期待。今後は、いかに学生を確保していくかが課題となる。

交付後、山田理事長は「スタートラインに立った気持ち」と、大きなハードルを乗り越えて安堵の表情。「地元の要請、各自治体の支援を受けて設置できた大学。思いに添えていくとともに、専門知

識だけでなく豊かな感性を持った学生を育てていきたい」と決意を新たに示した。

看護大は沈滞ムードの漂う中部地区にとって、活性化の切り札にも位置付けられる。鳥取中部ふるさと広域連合長の石田耕太郎市長

は「若者に地元に残っていたかどうかという面でも大きな意義がある。ニーズに合った大学づくりで、魅力的な大学になるよう努力していただきたい」とエールを送った。

「看護大学の中部地

区誘致を推進する会」の会長で、倉吉商工会議所の倉都祥行会頭は「経済面ではかなりの波及効果が見込まれる。中部一円の活性化への導火線として期待は大きい」と認可を喜ぶ。倉吉信用金庫の谷岡忠範理事長は「岡山県北も含めた中部圏域の経済、活性化のデッサンを描く上で大きな『背骨』ができた。まさに地方創生の起爆剤」ともろ手を挙げて歓迎する。

医療現場の期待も大きい。県中部医師会の松田隆会長は「医療の高度化に合わせ、看護師の質の向上は急務。医師と看護師が互いに連携し、住民の健康増進につながることを期待している」と話した。